

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「読んで考えたことを 話そう」 教材名「どうぶつ園のじゅうい」

2 単元の目標

仕事を説明する文の中で、誰が何をするかを確かめ、主語と述語の関係に気付ける。獣医の仕事について読んだことと自分の経験を結び付け、感想をもてる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①仕事を説明する文の中で、誰が何をするかを確かめ、主語と述語の関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「読むこと」において、獣医の仕事について読んだことと自分の経験を結び付け、感想をもっている。（C(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

獣医の仕事を時間の順に読み、何をしているかと、その理由や工夫を対応させる。自分の動物園や動物に関する経験と結び付け、読む前に知らなかった仕事への感想をもつ。学習指導要領のC(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

時を表す言葉と仕事の内容を並べ、誰がすることかを主語・述語で確かめる。動物園に行った経験がない場合は本や映像で知っていたことと比べてよい。おおむね満足できる状況は、獣医の仕事について読んだことと自分の経験を結び付け、感想をもっているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、獣医について知っていたことと、知りたいことを出す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○時間の順に仕事を並べ、主語と述語から誰の仕事かを確認する。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○仕事の理由や工夫を探し、仕事内容と対応させる。	学習状況を見て支援する。
	7 （本時）	○読んで驚いた仕事を選び、自分の経験や知識との違いから感想を考える。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○感想をカードにして読み合い、本文と自分の考えの関係を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○初めに知っていたことと比べ、読んで気付いた仕事の姿を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

獣医の仕事について読んだことと自分の経験を結び付け、感想をもてる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「獣医の仕事のどんなところに驚きましたか。自分が見たり知っていたりしたことと比べると、どんな違いがありますか」 【めあて】獣医の仕事を時間の順に読み、何をしているかと、その理由や工夫を対応させる。 〈予想される児童の反応〉 ・仕事をする理由が文章から分かる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「獣医の仕事のどんなところに驚きましたか。自分が見たり知っていたりしたことと比べると、どんな違いがありますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・仕事をする理由が文章から分かる。 ・自分が見た動物園では気付かなかった仕事がある。 ・毎日の世話と病気のときの仕事を分けて確かめたい。	時を表す言葉と仕事の内容を並べ、誰がすることかを主語・述語で確かめる。動物園に行った経験がない場合は本や映像で知っていたことと比べてよい。 想定する難しさ：動物のかわいさだけを感想にする。獣医以外の人の行動と混ぜる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 獣医の仕事について読んだことと自分の経験を結び付け、感想をもっている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・毎日の世話と病気のときの仕事を分けて確かめたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「獣医の仕事のどんなところに驚きましたか。自分が見たり知っていたりしたことと比べると、どんな違いがありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

